

演習 1

暮らしを理解する 教授用資料

本演習は、序章、第1章とつなげて「地域での暮らし」をイメージし、それを支援する看護につながる導入的意味合いをもつものである。

1. 学生観

1年次前期で看護学概論や基礎看護技術といった学習は先行しているものの、臨地実習などで医療の現場を見聞きする機会もまだない。したがって、看護実践や病気をもつ人々のイメージ化は十分ではない。この時期に、広く地域で暮らす人々が看護の対象であると意識づけたい。高校を卒業したばかりで、親の庇護のもとに難なく日々の暮らしを送っていることが多い学生にとって、ふだんは当たり前で意識にのぼらない暮らし、家族といったことに、看護師として関心を寄せる必要があることを理解してほしい。

2. 教材観

自分の暮らしを意識する。そこには、家族の存在があることも再確認する。暮らしは、人がニーズを充足するために、経済状況、思想・信条・価値観、環境(人的・自然・社会)を考慮し、手段・方法を選択しながら生活行動を日々遂行している、その様子をいう。暮らしを構成する要素には、はぐくむこと、つながること、養生すること、災いに備えること、祈ることなどがある。現在だけでなく、過去の影響、さらには未来の希望など、時間軸の視点をもって、暮らしとはなにかを理解したい。そのうえで、暮らしを支援するためにどんなことが必要かを考えてほしい。

3. 指導観

身近なことから考えてみる。暮らしには時間軸があるので、自分の暮らしで、まず考えてみる。これまで生きてきたなかで自分の暮らしぶりをふり返る。そして、将来を見すえたなかで、現在の位置づけを考え、いまの暮らしをしっかりと見つめるために、2日間の生活を記録に残し、どのような人と出会い、どのような状況のなかで、なにを考え、どう行動したかふり返る。選ぶ2日間は、1日はなにごともなく平穏なふだんの暮らしの日、1日はいつもと違うことから(行事やできごと)があった日を選ぶ。

暮らしは個々に違うことを理解するために、それをもち寄り、グループで共有する。

また、上記の学習をふまえて、事例の暮らしを考える。事例では、明確な病気はないが、こ

のまま身体機能が低下すると障害が生じる可能性がある高齢者の暮らしを考えてみる。方法はグループワークを導入する。

1) 指導目標

1. 自分の暮らしをふり返り、人との出会い、その日のできごと、環境などがどう暮らしに影響するかを理解する。
2. 友人の暮らしぶりを知り、さまざまな暮らしがあることを理解する。
3. 目標1.2.を通して「暮らし」とはなにかを深く考える機会とする。
4. 高齢者の暮らしについて理解を深め、暮らしを支援する看護師の役割を考える機会とする。

2) 指導計画

時間	主題	方法
事前課題	自分の暮らしを見つめる。	個人ワーク
1 単位時間	友人の暮らしを知る。	グループワーク
2 単位時間	独居・高齢男性の暮らしを支援する看護の役割を考える。	グループワーク

ワークシート記入例

ワークシート1 ▶ 自分と友人の暮らしをみてみよう。

課題1 ▶ 【事前課題】自分の暮らしを見つめてみよう。

ワーク1 2日間の自分の生活を記述しよう。1日はふだんの日(平日など)、もう1日はふだんと違った日(休日など)を思い出して記述しよう。

ふだんの1日

時刻	自分の生活・行動	場所	出会った人々やまわりの状況	感じたこと、考えたこと
0				
2	睡眠	自宅		
4	↓			ぐっすり寝たけれどまだねむい
6	起床・洗顔・朝食	↓	家族と顔を合わせる	おなかがすいた
8	登校	移動・学校	通勤・通学ラッシュ, 人ごみ	人が多くて疲れる
10	授業	↑	↑	友だちに会うとうれしい!
12	休憩・昼食・授業	学校	友人と勉強・おしゃべり	勉強がむずかしい
14	授業	×	×	ねむたい……
16	下校	移動・	↑	アルバイトをがんばろう!
18	アルバイト	アルバイト先	アルバイト先で仕事	人と話すのは楽しくて好き
20	アルバイト・移動・夕食	×	↓ (接客)	疲れた
22	テレビ・シャワー	×		宿題できなかった。どうしよう……
24	睡眠	自宅		とりあえず、寝てしまおう

ふだんと違った1日

時刻	自分の生活・行動	場所	出会った人々やまわりの状況	感じたこと、考えたこと
0				
2	睡眠	自宅		
4				
6				
8	↓			休日なのでゆっくり寝よう!
10	起床・洗顔・朝食		家族と顔を合わせる	こんな時間なので朝食兼昼食によ
12	テレビ・おやつ	↓	家族と一緒に過ごす	
14	外出・友人とお茶	カフェ	友人とおしゃべり	久しぶりに会えてうれしい
16	友人と買い物	駅ビル	人ごみ, 友人と一緒に	また衝動買いをしてしまった
18	掃除・夕食づくり	↑		家族が喜んでくれてうれしかった
20	夕食・テレビ			ゆっくりしてよかった。勉強しなくて
22	宿題・明日の準備			ねむいが、がんばった
24	↑ 睡眠	自宅		

ワーク2 他者に「自分の暮らし」を語れるように整理しておこう。

平日の生活は、ほぼ毎日決まった時間に決まった動きをしている。規則的だがゆとりはない生活。学校生活とアルバイトが暮らしの中心。友だちの存在が彩りになっている。休日は、家族と過ごす時間がとれている。

課題2 ▶ 友人の暮らしを聞いて、「暮らし」とはなにかを考えよう。

4人程度のグループワーク

ワーク3 友人の暮らしぶりを聞いて、感じたことを書いておこう。

目安: 15分

- 平日は私とほとんど同じ。アルバイトの時間帯や仕事内容に少し違いがある。
- 睡眠時間が短く、毎日夜に学習時間をとっている。
- 通学時間が長く朝食をとれていない。
- 英会話やダンススクールなど、休日を自己研鑽にあてていて、見習いたい。
- 休日の暮らしは私と友人でまったく違う。私はゆっくりしたいけれど、友人は朝早くから出かけ、アウトドア・スポーツを楽しむなど活動的。
- 私はアウトドアは、どちらかという苦手。人それぞれ楽しみ方はちがうものだ。友人のように趣味が多いことは少しうらやましい。

個人ワーク

ワーク4 第1章を読み、「暮らし」について大切な要素を書きとめておこう。

目安: 10分

- 衣・食・住
- 身体活動(栄養・排泄・活動・睡眠など)
- はぐくむ
- つながる
- 養生する
- 災いに備える
- 祈る
- 学ぶ
- 働く
- 感情
- 夢や希望
- 価値観
- 歴史

4人程度のグループワーク

ワーク5 「暮らしとはなにか」について、友人と話したことをまとめよう。

目安: 15分

- 人によって1日のスケジュールは違う(睡眠時間、家事や仕事・学習に使う時間など)
- 住んでいる場所や家族の状況などによっても暮らし方はかわってくる。
- 暮らしのなかでなにを大切にすることは、その人によって違う。

↓

- 暮らしは千差万別で、人の数だけ暮らし方がある。
- 暮らしには、その人個人の価値観が反映される。一方で、家族や住む場所など、周囲の環境の影響も受ける。

ワークシート2 ▶ 暮らしを支援する看護師の役割を考えよう。

事例

あなたの学校がある地域に暮らす、82歳男性Aさん。2年前に妻と死別し、現在はひとり暮らし。ひとり息子は結婚して他県に暮らしており、年2~3回、様子を見に戻ってくる。

食事をつくることは昔から好きだったため、週2回の買い物と調理は自分で行き、1日3食、規則正しく食べている。掃除や洗濯はあまり好きではないと言っていて、あまりしていないという。しかし、自宅を訪問しても、あまり不潔な印象はない。

定年まで工場に勤め、物づくりにかかわっていた。人と話すことは苦手で、友人は仕事仲間の2~3人のみ。近隣の人との付き合いは、ほとんどない。友人とはときどき電話で話すくらいで、会うことはあまりない。日中は新聞をすみからすみまで読み、テレビを見ている。とくに趣味はない。

10年前に高血圧と高尿酸血症を指摘され、徒歩で15分の内科診療所に月に1回通院し内服治療を行っている。工場勤務のときから、ときどき腰痛と膝痛があり、痛みがあると徒歩で10分くらいの整形外科診療所で湿布薬と塗り薬をもらっている。

あなたは内科診療所に勤務する看護師。最近、Aさんの歩行速度が遅くなり、動作が緩慢で表情が乏しくなっていることが気になっている。

ワーク1 Aさんの生活エリア(生活圏)を考えてみよう。広さは? どんな地域? 知っていることを書いてみよう。

自宅を中心に徒歩15分圏内くらいの生活圏。
住宅地だが人づきあいが密接な地域ではない。
生活圏のなかに、ふだん買物をするスーパー、ドラッグストア、定期的に通院している診療所がある。
最寄り駅までは徒歩15分程度。
近所に散歩に出かけられる公園がある。

個人ワーク
→ ペアワーク

ワーク2 Aさんのいまの暮らしを考えてみよう。

目安: 5分

- 室内では自立した生活ができているが、あまり外に出かけていない。
- 定期的な通院もできている
- 人と接する機会が少ないこと、最近の動作が緩慢になっていることが気にかかる。

個人ワーク
→ ペアワーク

ワーク3 Aさんの過去の暮らしぶりについて想像してみよう。

目安: 5分

以前は妻と息子に手料理をふるまったりして、家族でにぎやかに過ごしていたのだろう。工場での物づくりの仕事で、人とのコミュニケーションをとる機会は少なかったかもしれない。

個人ワーク
→ ペアワーク

目安: 5分

個人ワーク
→ ペアワーク

ワーク4 Aさんは、いま、どんな気持ちで暮らしているか想像してみよう。

目安: 5分

以前は家族で暮らしていた家でほとんどひとりきりで過ごしているので、さびしく思うこともあるのではないだろうか。
動作や表情の変化に自身で気づいているようならば、不安に思っているかもしれない。

個人ワーク
→ ペアワーク

ワーク5 Aさんは、これからどう暮らしたいと思っているか、考えてみよう。

目安: 5分

- 住み慣れた自宅で今のまま暮らしていきたいと思われているそうだが、一方で不自由がでてきたときの不安もあるのではないだろうか。
- 息子さんには迷惑をかけたたくない、自分のことは自分でやりたいと思っているのではないだろうか。
- 人に迷惑をかけるくらいなら、この先そう長く生きなくてもよいと思っているかもしれない。

個人ワーク
→ 4人程度のグループワーク

ワーク6 内科診療所の看護師として、あなたはAさんの暮らしをどう支えることができるか、考えてみよう。

目安: 30分

- 定期的に通院してきてくれているので、通院が継続できるように支える。
- 通院時に声をかけ、ふだんの暮らしで困っていることがないか、様子に変化はないかをみる。
- 暮らしのなかで困っていることがある場合は、相談先や解決方法の紹介ができるよう、地域のサービスなどを調べておく。
- 地域の同年代の人とつながりのもてる場所(老人クラブなど)を紹介する。

演習 2

地域を理解する 教授用資料

第1章で暮らしについて学んだが、人々の暮らしに影響を与えるのが「地域」である。対象の暮らす地域を理解することなしに、地域・在宅看護は実現しない。

地域とは、その人の生活の拠点を中心としたある一定の範囲をさし、ここでは生活拠点から30分圏内、あるいは二次医療圏と考える。住み慣れた地域で暮らしつづけるために必要な保健・医療・福祉システムが機能するエリアをいう。

1. 学生観

学生が地域を意識する機会は少なくなっている。自分の住む地域がどんな地域か、どんな特徴があるのかに興味や関心を示す学生は多くない。最近、テレビなどでも県民性や都道府県のさまざまなランキングなどを取り上げる番組があるが、ふだんの暮らしのなかで「地域」をイメージする機会は少ない。地域によって産業や経済、気候風土、行事、人と人とのつながり、保健・医療・福祉システムなどにも違いがあり、それが人々の暮らしと健康に影響を与えるという認識はあまりできていない。近年頻発する災害などの特別な事態がおきたときに、わが地域やふだんの暮らしを強く意識することになるのが現状であろう。

2. 教材観

人々の健康に、気候風土や種々の災害などが影響することは比較的理解しやすいだろう。しかし、ここでは、地域・在宅看護論の学習がスタートしたばかりで、災害看護などの学習はもう少しあとになるため、平素から地域への意識づけを行うという方向で進める。

地域の環境、とくに社会のしくみ(保健・医療・福祉システム、公助・共助・社会資源)や人々のつながり(互助)、さらに生活環境(交通、産業、経済)などは、人々の暮らしや健康課題を考えるうえで欠くことができない重要な要素である。しかし、産業、経済、人と人とのつながり、さらに保健・医療・福祉システムなどといった地域の環境が人々の暮らしにどう影響するのかということについては、学生は十分理解できていないと思われる。

したがって、まずは学生に、人々の暮らす地域に関心を寄せてほしいと思う。そして、そこはどんな地域かを理解し、その地域が人々の暮らしと健康にどのような影響を与えているかを考えてほしい。地域・暮らし・健康の強いつながりを理解して、人々の暮らしと健康を支える役割を担うことを意識させたい。

3. 指導観

人々の暮らす地域に関心を寄せてほしい。そして、そこはどのような地域で、それがどう人々の暮らしと健康に影響するかを理解してほしい。そのうえで、病気になっても安心して暮らせる地域にするにはどうすればよいかを考える機会とする。

そのために、まず事前課題として、自分の住む地域に関心をもちてもらおう。実際に歩いてみるなどして、自分の暮らす地域がどんなところかを感じ、考えてもらう。

各自の事前課題をグループで発表・共有し、人々の暮らす地域を知るためにどんなデータがあればよいかを考える。そのうえで、学校の所在する地域を知るために、どんなデータをどう集めるか、収集計画をグループで立てる。

分担したデータを持ち寄り、健康障害をもって学校周辺で暮らす人々が利用できる地域資源マップと、マップにあらわしきれなかった情報をまとめておく。

その後、地域で健康的に暮らすための課題、健康障害をもって地域で暮らし続けるための課題を整理し、健康にかかわる「地域」について、具体的な理解につながるようにする。

1) 指導目標

1. 自分の住む地域の特性を理解する。
2. 学校の所在する地域に、目を向けて、地域の特性を理解する。
3. 健康障害が生じて、安心して地域で暮らしつづけるための課題を考える。

2) 指導計画

時間	主題	方法
事前課題	自分の暮らす地域の特性を知る。	個人ワーク
1 単位時間	地域を知るためにはどんな情報が必要か考える。	グループワーク
	学校の所在する地域を理解する。	フィールドワーク
2 単位時間	収集したデータをもとに、地域資源のマップをつくり、地域の特性を理解する。	グループワーク
	収集したデータをもとに、地域の健康課題を考える。	
3 単位時間	グループワークの成果を発表して、クラスで共有する。	成果発表と集団討議

ワークシート1 ▶ 自分の暮らす地域、学校の所在する地域を理解しよう。

4人程度の
グループワーク

ワーク1 【事前課題】自分の暮らす地域の特性を列記してみよう。また、どのような点からそう考えたか、理由・根拠も示そう。

• 地域名：

東京都 A 市

• 地域の特性

- ① 駅周辺は商業施設が多いが、徒歩 10 分ほどはなれると住宅や個人商店が多い。
- ② 子育て世代も高齢者も多く暮らしている。
- ③ 交通の便がよく、都心に通勤・通学する人が多い。

• そのように考えた理由・根拠(イラストや写真も活用しよう)

- ① 実際に地域を歩いてみて、そのように感じた。
- ② 右写真のように、休日の公園では家族で遊ぶ姿が多くみられる。同じ公園で、早朝にはたくさん的高齢者が集まりラジオ体操をしている。
- ③ 平日の朝は上り方面、夕方は下り方面の電車がとても混雑している。



グループで発表し合おう。

4人程度の
グループワーク

ワーク2 発表を聞いて、「暮らしと健康」を支援する目的で地域を知るためにどんなデータが必要か、みんなで考えてみよう。

目安：25分

- その地域にどんな人が暮らしているか(年代、性別、職業、家族構成など)
- 地域に暮らす人が必要とする施設やサービスにはどのようなものがあるか、また、現在それらが十分に整備されているか。

ワーク3 学校の所在する地域に住む人々の健康と暮らしを支援するために必要な地域のデータを考えて、どのようにデータを収集するか、収集計画を立案しよう。

目安：60分

※データの収集方法には、インターネット検索、フィールドワーク、インタビューなど、さまざまある。考えてみよう。

必要なデータ	情報収集方法	グループ内での役割分担
人口統計	自治体 Web ページ	A さん, B さん
住民のニーズ	自治体担当者へのインタビュー	全員
地域の高齢者向け施設・サービス	インターネット検索	A さん
地域の子育て世帯向け施設・サービス	インターネット検索	B さん
地域の障害者向け施設・サービス	インターネット検索	C さん
地域の交通インフラ	インターネット検索 フィールドワーク	全員
地域の医療機関	自治体 Web ページ インターネット検索	C さん, D さん
地域の教育機関	自治体 Web ページ インターネット検索	D さん
地域の警察署	自治体 Web ページ インターネット検索	D さん
地域の産業	自治体 Web ページ インタビュー	全員

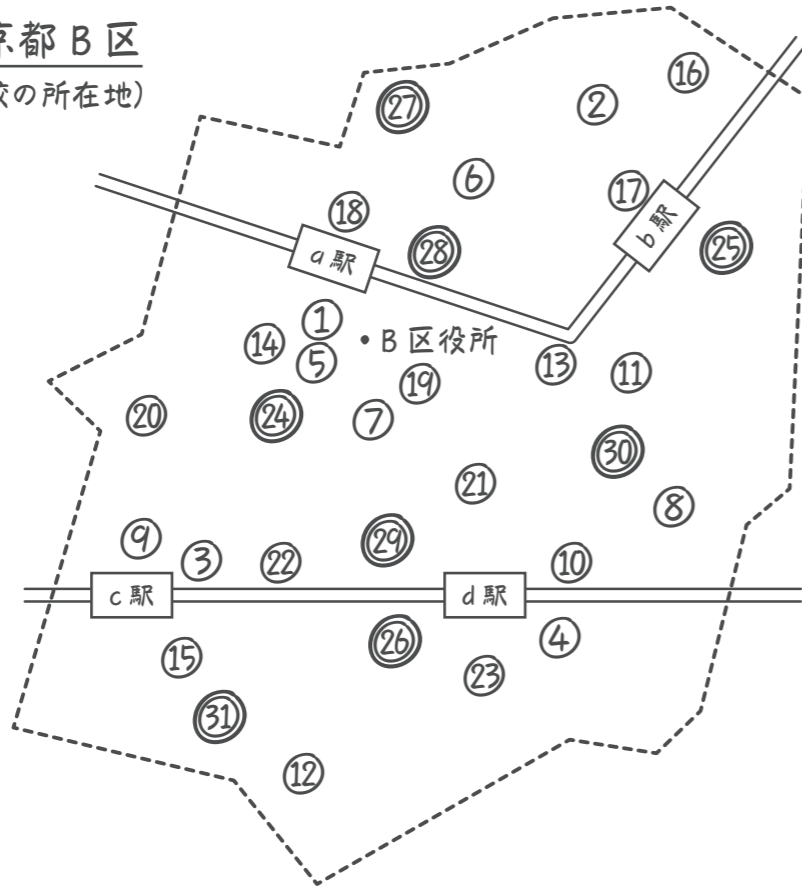
ワークシート2 ▶ 健康障害をもっても安心して暮らせる地域にしていくために、地域の実情を知り、課題を考えよう。

4人程度のグループワーク

ワーク1 ワークシート1を経て情報収集したデータのなかから、まず、健康障害をもっても地域で暮らしつづけるために必要な社会資源などを地域資源マップにしてみよう。

目安：40分

東京都B区
(学校の所在地)



①～④
地域包括支援センター

⑤
B区社会福祉協議会

⑥～⑩
医療機関(病院・診療所)

⑪・⑫
グループホーム(認知症高齢者向け)

⑬～⑮
認知症カフェ

⑯～⑳
通所サービス(高齢者向け)

㉔～㉖
就労支援

㉗～㉙
放課後等デイサービス

㉚
グループホーム(障害者向け)

○ おもに高齢者向けのサービス
● おもに子ども・若年者向けのサービス

4人程度のグループワーク

ワーク2 情報収集したデータのなかで、**ワーク1**に記述しきれなかった地域の特性を示すデータを整理しておこう。

目安：15分

- 公的なサービス以外にも、地域ボランティアによる見守り活動や買物支援の活動がある。区役所などではそのすべてを把握できていない。
- 高齢者向けのサービスに比べて子ども・若年者向けのサービスが少なく、不足しているという住民のニーズがある。
- 東西の交通の便は比較的よいが南北の移動に不便がある。
- 地域の人口に占める割合は、65歳以上の高齢者が22.3%。14歳以下の子どもは12.1%で子育て世帯も多く暮らす。外国人住民は2.0%だが、増加傾向。

4人程度のグループワーク

ワーク3 **ワーク1**と**ワーク2**をもとに、地域で健康的に暮らすための課題を整理してみよう。

目安：20分

- 多くのサービスがあるが、所在地の偏りや交通の便のわるさ、周知不足などにより十分に活動できていない面がある。
- 高齢者向けのサービスは比較的充実しているが、子どもや若年者、外国人など多様な対象に向けたサービスにも目を向ける必要がある。

4人程度のグループワーク

ワーク4 健康障害をもつ人が地域で暮らしつづけるための課題を考えよう。

目安：15分

- 暮らしを支えるサービスについての情報を整理し、ニーズにそって適切に提供できるようにする。
- 高齢者に限らず、あらゆる人々を対象にしたサービスを提供する。

演習 3

家族を理解する 教授用資料

第1章の暮らしの理解のなかでも、第2章の地域の理解のなかでも、家族について触れられている。ここでは、看護の対象として、地域社会を構成する最小のシステムとしての家族を理解する。同時に、家族の概念は時代とともに変化していることを理解し、現在の家族の定義や機能についても、みずからの家族観とともにおさえておきたい。

1. 学生観

学生の、家族とはなにか、具体的にどんな機能をもつか、家族を地域社会のシステムの最小単位としてとらえるといったことへの理解は、決して十分ではない。同時に、家族については、対象者の背景や世話人として理解している者も多く、家族も看護の対象であるという認識はあまりない。

学生のなかには、家族の存在について、意識せずに生活している者がいる一方、家族について複雑な思いをかかえている者もいる。学生は、家族の機能を、情緒機能やヘルスケア機能、社会化機能といったことで理解していると思われる。

なお、前述したように学生のなかには、家族についてさまざまな思いをいだいている者も多いため、取り上げ方には注意が必要である。

2. 教材観

近年の家族形態は多様である。家族を一義的に定義することはむずかしく、その人が家族であると考える人が、その人にとっての家族だといえる。フリードマンは「家族は絆を共有し、情緒的な親密さによって互いに結びついた、しかも、家族であると自覚している2人以上の成員」と定義している。ここでは、家族の機能を、フリードマンの①情緒機能、②社会化機能、③ヘルスケア機能、④生殖機能、⑤経済機能の5つでとらえる。そして、家族システム論を用いて、家族成員間のつながり、家族と社会とのつながりを理解し、家族を地域社会システムの最小単位ととらえられるように教授する。

3. 指導観

家族の理解(定義・機能)のために、自分の家族をふり返り考えてもらう。ただし、さまざまな感情をいだく者もいるため、自己のふり返りによる理解にとどめ、共有することは避けたい。そのうえで、看護の対象として理解するために、自分の家族を離れ、事例教材を取り上げる。

教材は、重度の要介護者を介護する家族が家族内の確執で体調をくずす事例を活用し、1人の要介護者が家族のなかにいることで、家族全体に影響することを学んでほしい。同時に、療養者のみならず、家族も対象ととらえて看護していく必要性を理解する。

1) 指導目標

1. 自分の家族を通して、家族の定義や機能の理解を深める。
2. 事例の看護を通して、家族を1つのシステムととらえ、看護の対象として理解することの必要性が理解できる。

2) 指導計画

時間	主題	方法
1 単位時間	家族とはなにかを理解する。	個人ワーク
	家族を看護の対象と理解し、1つのシステムとして家族をとらえる方法が理解できる。	個人ワークとグループワーク

ワークシート記入例

ワークシート1 看護の対象として、家族を理解しよう。

個人ワーク

ワーク1 自分にとって家族とはなにか、考えてみよう。

目安：2分

心のよりどころ。安心できる場所。
何かあったときに助け合う関係。
互いに期待が大きく、その分ぶつかり合うこともある。

ワーク2-1 あなたにとっての家族の機能として、該当するものに○をつけてみよう。

目安：1分

- ① 情緒的機能(安心感や信頼感を与えるなど)
- ② 社会化と社会布置機能(子どもをしつけ、社会に出せるようにするなど)
- ③ ヘルスケア機能(老いた親を介護するなど)
- ④ 生殖機能(子どもを産む、子孫を残すなど)
- ⑤ 経済的機能(生活・教育などの消費機能など)

ワーク2-2 昭和30年代は**ワーク2-1**の2, 3, 4が主要な家族の機能であったが、現在ではどうだろうか。考えてみよう。

目安：3分

1や5の重要性が高まっている。
2, 3は、家族だけでなく、家族以外でも負担をわけ合うことが浸透しつつある。
4は個人の自由が尊重され、必ずしも子どもをもつことがあたりまえではなくなっている。

個人ワーク

ワーク3 家族の形態がどのようにかわったか、約30年前と比較してみよう。

目安：5分

● 平均世帯人員と世帯構造別構成割合を調べてみよう。

(2019年)

		1992(平成4年)	現在	
平均世帯人員		2.99人	2.39人	
世帯構造別構成割合	単独世帯	21.8%	28.8%	
	核家族世帯	夫婦のみの世帯	17.2%	24.4%
		夫婦と未婚の子のみの世帯	37.0%	28.4%
		ひとり親と未婚の子のみの世帯	4.8%	7.0%
	三世帯世帯	13.1%	5.1%	
その他の世帯		6.1%	6.3%	

● その他の世帯にはどのような世帯があるか、あげてみよう。
きょうだいだけの世帯、祖父母と孫の世帯、友人どうしの世帯など

個人ワーク

事例

とても仲のわるい老夫婦。子どもは独立して家庭内別居状態。2階に妻が住み、1階に夫が住む。掃除も洗濯も別々。妻の年金が少ないため、夕食を妻が準備するという契約で、夕食にかかる費用は夫が負担することになっているという。どちらかが病気になっても面倒はみないと互いに言っている。2人のコミュニケーションはまったくない。

ワーク4 事例のような家族は、家族といえるのだろうか。

目安：3分

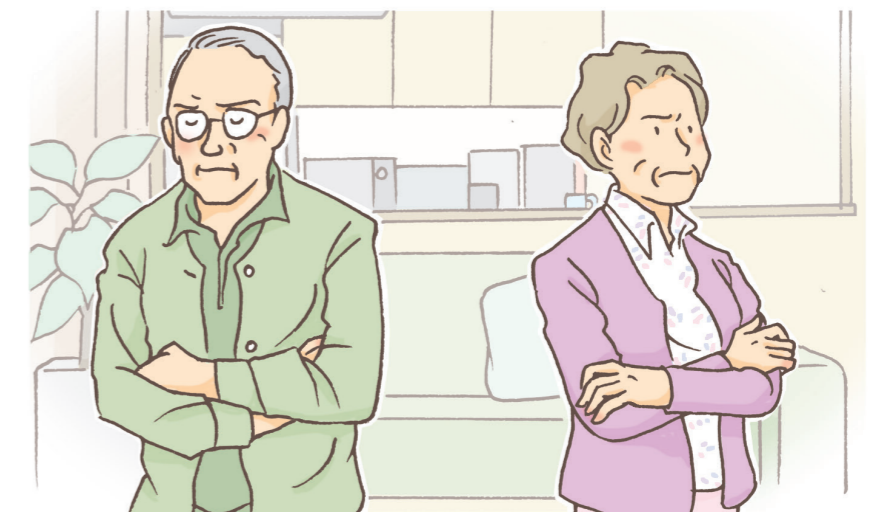
いえる / いえない

どんな理由で、あなたはそう考えたのだろうか。

- 仲がわるいとはいえ、同じ家で暮らし、生活面や経済面でもおぎない合っている。
- 戸籍上の夫婦関係を解消(離婚)していない。

「いえない」の場合の理由の例

- お互いの信頼関係がなければ同居していても家族とはいえない。
- 掃除・洗濯などの日々の家事も別々で、一緒に暮らしているとは言いがたい。



ワーク1 Aさんの事例を通して、看護の対象として家族をとらえる意義について自分の言葉でまとめ、グループで共有しよう。 **目安：15分**

療養者ご本人の暮らしを支えるためには、本人だけを見ていてもよいケアはできない。

本人とその家族はお互いに影響しあっていて、バランスをとりながら暮らしているのです、家族をまるごと看護することが暮らしを支えることにつながる。

● ジェノグラムとエコマップの描き方

ジェノグラム：家族内の人間関係を図にしたもの。血縁関係や親族関係がわかる。家族内のキーパーソンを探る意味でも重要な資料となる。


エコマップ：生態図ともいわれ、家族の活用している社会資源の情報を図式化したもの。家族とその外部の種々のシステムとの関係を示す。


ジェノグラムとエコマップを合わせて一面に示すことで、家族関係と社会資源や社会との交流が見える。

記入の仕方

女性は○ 男性は□

(亡くなった人は×印であらわす)。

強い相互の関係 

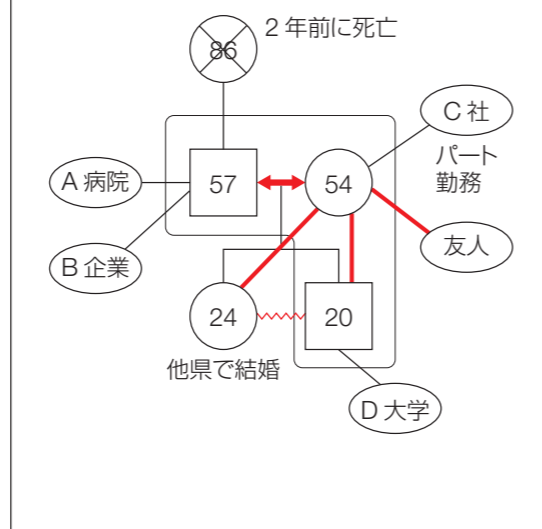
一方向的な関係 

友好的な関係 

疎遠な関係 

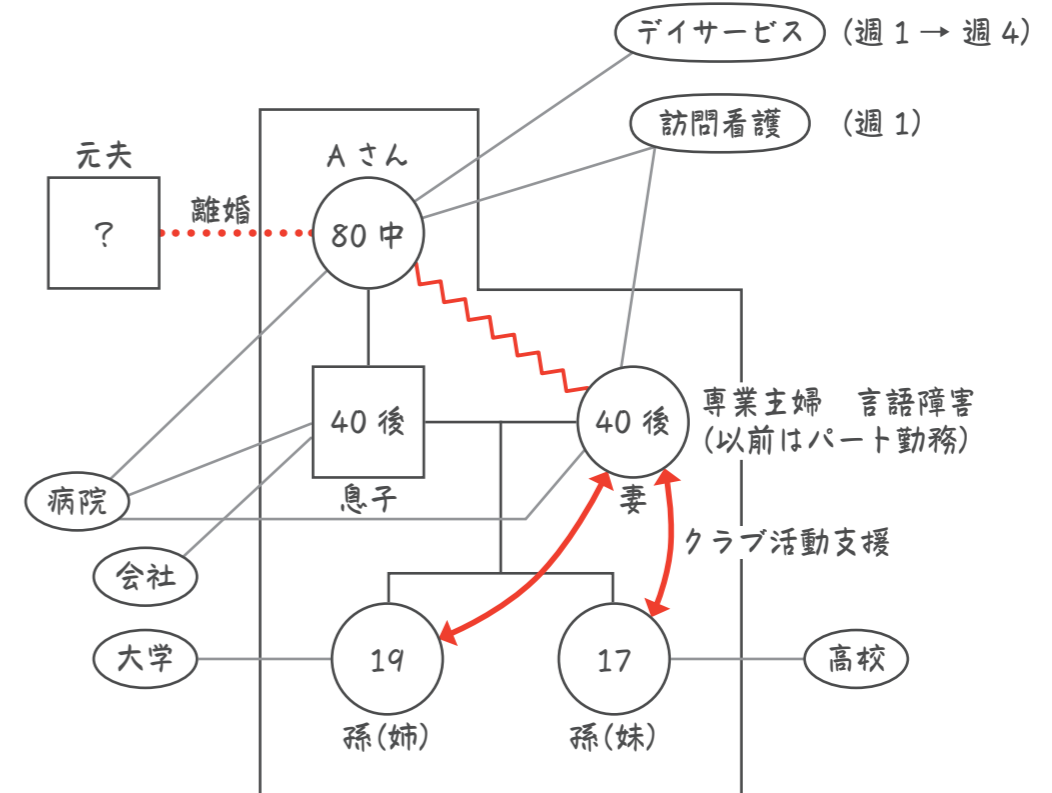
葛藤のある関係 

【記入例】



ワーク2 Aさんの家族のジェノグラムとエコマップを書いてみよう。

目安：30分



ワーク3 エコマップやジェノグラムから、Aさんの家族についてみえてきたことをまとめよう。 **目安：10分**

- Aさんと息子の妻の関係がわるくなってしまっている。
- 息子の妻がおもにAさんの介護を任っているが、サポートが少なく言語障害もでるなど、ケアが必要な状況。
- Aさんが利用しているサービスはデイサービスと訪問看護である。
- 息子の妻とその娘たちの関係はよいが、娘たちはAさんの介護には直接携わっていない。
- Aさんの息子の役割が見えづらい。

演習 4

多職種との連携・協働を考える 教授用資料

地域で暮らす人々の健康な暮らしを支援するには、さまざまな職種との連携・協働が不可欠であることを理解する。さらに、連携・協働するには、まず、それぞれの役割を理解すること、そして、協働に向けては対象の目ざす目標を対象および関連職種と共有することから始まることを学んでほしい。

1. 学生観

1年次も後期になり、看護学概論もおおむね修了し、さまざまな専門職種があることは学習した。また、臨地実習では、病院で治療を受ける患者にさまざまな医療職種がかかわっていることを見聞きしてきた。しかし、まだ、それぞれの職種の理解は十分とはいえず、まして、どんなときに、どんな職種と、どう連携・協働するかについては考えたこともない状況である。みずからの役割を考えつつ、それぞれの職種の具体的な役割の理解に向けて学習してほしい。

2. 教材観

専門職の連携・協働を考えるには、具体的な事例を用いるのがよい。それぞれの事例の状況から、必要な職種との連携・協働を考えてほしい。その学習を通して、援助者として共有する目標、それぞれの専門職の役割理解、そして、みずからの専門性を発揮するべく自分の役割を考えながら、目ざすは対象の目標達成であることを理解してほしい。

3. 指導観

対象の健康な暮らしを支援する専門職は、状態や場によってさまざまあることを理解するとともに、対象の目標達成に向けて、効果的な連携・協働のあり方を考える。

そのために、可能な限り、多職種の学生との協同学習を設定する。

1) 指導目標

1. 事例の理解に基づき、目標を達成するために、どんな職種との連携・協働が必要かを考える。
2. 連携・協働する職種間で事例の目標を共有する。
3. 事例の目標達成に向けて、それぞれの職種の役割とみずからの役割を理解する。
4. 事例の目標達成に向けて、多職種との連携・協働のあり方を他職種の学生とともに考えることができる。

2) 指導計画

時間	主題	方法
事前課題	事例を理解し、連携・協働する職種を特定しその役割を理解する。	個人ワーク
1・2単位時間	多職種と事例の目標を共有し、目標達成に向けてそれぞれの職種の役割を理解し、連携・協働について考える。	専門職連携教育 展開①目標共有 → ②それぞれの職種の役割をふまえて協働を考える → ③ポスター作成 → ④発表 → ⑤講評

ワークシート1 事例の目標を共有し、多職種間で話し合い、目標達成に向けて連携・協働のあり方を考えよう。

4人程度のグループワーク

事例

Aさん(63歳、女性)は、50歳から高血圧と脂質異常症を指摘され、降圧薬などの内服治療を行っていた。3週間前、朝食後に右上下肢の脱力感が出現、状態の変化に気づいた家族が救急車をよび、B病院に救急搬入された。その後、血栓溶解療法を受けて状態は改善した。リハビリテーションを開始し、右片麻痺は残ったが、杖歩行でトイレまでの歩行は可能、更衣動作や入浴などには介助が必要。食事は利き手交換で自力摂取可能。舌の筋力低下、口唇の閉鎖力の低下あり。構音障害があり言葉が出にくく「こま……かい……こと……むつ……かしい」と言うところまで回復した。

さらに1週間の入院期間を経て、Aさんは自宅でリハビリテーションを継続することになった。Aさんは、2か月後に予定されている娘の結婚式には恥ずかしくない姿で出席したい、そして、主婦として、自分で料理をつくり、夫とふたりで静かに暮らしたいと言う。

ワーク1 【事前課題】Aさんの状態を理解するために、事例を読んで、わからない用語などがあれば調べておこう。そのうえで、Aさんについて理解したことを書いておこう。

血栓溶解療法：脳梗塞や心筋梗塞などで行われる。血栓溶解薬の投与によって血栓を溶解して血流を回復させる治療法。

利き手交換：病気やけがなどで本来の利き手が障害された場合に、もう一方の手で日常生活等をできるようにすること。

構音障害：語音が正しく発音されない発音障害。

ワーク2 【事前課題】Aさんの目標を達成するために協働する他職種をあげて、その職種の役割を書こう。

歩行など運動機能のリハビリテーション … 理学療法士(PT)

食事や更衣などの訓練 … 作業療法士(OT)

構音障害と嚥下障害のリハビリテーション … 言語聴覚士(ST)

多職種が連携して、Aさんの目標達成に向けてなにができるか考えよう。

ワーク3 Aさんの目標を共有しよう。 目安：10分

- ・2か月後の娘の結婚式に恥ずかしくない姿で出席したい。
- ・自分で料理をつくり、夫とふたりで静かに暮らしたい。

ワーク4-1 Aさんの目標達成に向けて看護師ができること(看護学生が考えてグループで共有する) 目安：10分

- ・Aさんの症状をアセスメントし、必要に応じて医師や他の専門職と連携する。
- ・Aさんや家族の思いを聞き、希望する暮らしが実現できる方法を考える。

ワーク4-2 Aさんの目標達成に向けて専門職1ができること(専門職1の学生が考えてグループで共有する) 目安：10分

(PT)
結婚式の出席に向けて、安定して立っていただけること、無理なく座っていただけることを目標に、リハビリテーションを計画する。

ワーク4-3 Aさんの目標達成に向けて専門職2ができること(専門職2の学生が考えてグループで共有する) 目安：10分

(OT)
ももとの利き手ではない左手で安全に包丁を使ったり、できるだけこぼさずに食べたりできるような訓練を計画する。

ワーク4-4 Aさんの目標達成に向けて専門職3ができること(専門職3の学生が考えてグループで共有する) 目安：10分

(ST)
言葉の出にくさについてAさんがどのように考えているかを把握し、Aさんの希望にそった訓練を計画する。食事のときにむせないように、食べやすい形態をAさんと一緒に考える。

ワーク5 多職種が連携・協働するために大切にしたいこと 目安：20分

- ・それぞれの専門性をいかしながら、Aさんにとってよりよい暮らしがおくれるように、コミュニケーションをとって目標を共有する。
- ・いつも、「Aさんがのぞむ暮らし」を実現するという目標のために、それぞれがなにをできるかを考える。